

2024. 5. 21 少しずつ安心空間へと変わっていく

新入園児は入園して1か月が過ぎました。

最初は不安から泣いていた子供たちも、朝笑顔で園に来てくれるようになってきました。

また、朝涙が少しこぼれたり、不安そうに登園してきたりした子供も、帰りには笑顔で帰っていきます。

最近の年少さん、年中さんの様子を見ていると、自分たちのやりたい遊びが少しずつ見つかってきているようにも思えます。

朝幼稚園にくと、カバンを置いて、とりあえず頭に手作りカチューシャをつける子。
空き箱で、猫ちゃんを作る子。

紙飛行機を先生と一緒に飛ばす子。

電車の線路作りをする子。

ままごとのエプロンをつける子。

虫かごをもって園庭に出る子。

園生活全体に慣れ、生活の見通しをもてるようになってきたのも大きいとは思いますが、全体を見ていると、自分のやりたい遊び、行きたい場所がなんとなく生まれてきているように思えます。

園の環境が子供たちの安心を支えます。

しかしそこには、教師の声掛け、まなざし、環境設定を始め、一緒に遊んだり、考えたりする教師の関わりも大切です。教師も日々どうしたら安心感を育むことができるのか、笑顔がふえるのか、子供たちの今の興味・関心はどこにあるのか、「好き」と出会うためにはどう子供たちを支えていくといいのか、などいろいろ悩みながら保育を進めています。

それは年長さんでも同じことが言えます。

ただ年長さんは、安心感を育むとともに、自分の中でモノやコトに向き合う中で自分なりに探究し、手ごたえを感じながら、その空間が子供たちにとっての面白空間へと変わりはじめてもいます。

「明日はどうなっているかな？」

「これも作ってみたいな！」出会いと気づきがつながり合いながら、心動く出会いがさらに生まれていきます。

しかしそのベースはやはり安心空間。

これからもどのお子さんにとっても、園空間が安心できる場であり、子供たちの「やりたい」があふれる場であるように、保育を進めていきたいと思います。

